

風車破壊の記事 (2008.4.8&4.3)

(その1) 東伊豆

春の嵐、風力発電の羽根折れる 静岡

2008年04月08日22時13分

発達中の低気圧が通過した影響で、関東の太平洋沿岸や伊豆諸島は8日、風速20メートルを超える風が吹き、海上は波の高さが6メートルを超える大しけとなった。9日朝も関東の太平洋沿岸で最大20～25メートルの強風が予想されるため、気象庁が注意を呼びかけている。



強風で羽根が大破した風力発電施設＝8日午後、静岡県東伊豆町、本社ヘリから、堀英治撮影

8日、神奈川県では横須賀、川崎両市で宅地造成地などでがけ崩れが発生。横須賀市で4世帯15人に避難勧告が出たほか、川崎市の2世帯6人が自主避難した。静岡県では、東伊豆町にある風力発電施設2基の羽根(長さ37メートル、重さ6.5トン)がそれぞれ1本ずつ折れ、高さ約60メートルの柱からそれぞれ落下した。

羽田空港の滑走路1本も一時冠水し、8日午後10時までに全日空と日本航空で計154便が欠航。JR東海道線も70本が運休するなどした。

▶ [アサヒ・コムトップへ](#)

(その2) つくば

＜強風＞「発電できない」風車破損、羽根4枚が飛散— —つくば・谷田部南小

4月3日14時52分配信 [毎日新聞](#)



[拡大写真](#)

羽根が壊れた小型風車(左)と無傷の風車(右)＝つくば市境田の谷田部南小で

つくば市境田の市立谷田部南小(櫻村康司校長)に設置された小型風車の羽根4枚が1日、強風を受けて破損した。けが人はなかった。メーカーの資料では羽根の耐久性は風速60メートルまでであるとされているが、水戸地方気象台によると1日のつくば市の最大瞬間風速は22.1メートルだった。市が小中学校に設置した風車は計画通りに発電せず、事業費の返還訴訟に発展している。設計上の問題が改めて浮上する可能性がある。

【関連記事】[ニュースBOX風車訴訟、和解協議継続](#) / 茨城

同小にはダリウス・サボニウス型風車3基が05年7月設置された。内側の鉄製羽根4枚と外型のアルミ製羽根3枚で風を受け止める仕組みだが、想定通りに回らず06年12月停止した。

市環境課などによると、1日午後1時ごろ、1基が強風を受けて回り始め、内側2枚と外側2枚の羽根が音をたてて破損し、破片が飛び散った。一部は約20メートル先の職員の車に当たった。クラブ活動で登校していた児童もいたが、校舎内にいて無事だった。

